

6. 台風により災害が起こった日との関係

台風の接近、上陸によって本邦に災害が起こった件数87回について月齢との関係を見ると第3図⑧ようになる。

前項において災害発生の極大は新月のあとにみられたが、台風災害との関係では満月のあとにみられる。

次に、台風災害は気圧のはげしい変化と関係するから月齢別の気圧変化と比較してみた。宮崎における月齢別の気圧変化³⁾を示すと第3図のとおりである。これと第3図⑧を比較すると気圧の低極は災害の高極とだいたい逆位相を示していることがわかる。

7. まとめ

第3図③に低気圧、前線、台風による気象災害の起日を

示すが、上弦、下弦のころに災害が多いことがいえる。

8. むすび

気象災害は上弦、下弦のころによく起こっていることがわかった。この結果はアメリカで見いだされたものと大体一致しているが、今後資料を整理して再検討したい。

参考文献

- 1) 気象学ハンドブック, 技報堂, p. 243.
- 2) 日本百科大事典, 第6巻月報.
曆と生物のふしぎな関係, 根本順吉.
- 3) 安井 豊, 日高武恒. 月齢と各気象値との関係,
天気10巻7号, p. 15.

昭和41年度日本気象学会賞、藤原賞候補者推薦について

日本気象学会賞・藤原賞候補推薦委員会

昭和41年度学会賞、藤原賞の推薦について一部の会員には下記の依頼文をお届けしましたが、一般会員の方からも御意見があればふるって御推薦をお願いします。なお推薦用紙は学会事務局にありますから御請求下さい。
(前略)

私ども(下記)はこのたび昭和41年度日本気象学会賞および藤原賞候補推薦委員に命ぜられましたが、つきましては両賞の審査の資料として各関係分野での、それぞれの適当候補者(共同研究を含む)1名を御推薦いただければ有難く存じます。日本気象学会賞(副賞付)は「原則として前5ヶ年間の気象集誌に発表された論文を審査してその中から気象学に関し、重要な研究をなした者」を、また藤原賞(副賞付)は「気象学の応用に関する調査、研究、総合報告、著述等により、日本の気象学および気象技術の向上に寄与した者」をそれぞれ候補者として推薦委員会を選び、理事長はこれを「常任理事会にかけ、全理事に対し、無記名によってその可否を投票させ」て選定されるものでありまして、参考までにこれまでの受賞者氏名をあげれば別紙の通りであります。御推薦は別紙候補者推薦用紙に御記入の上、勝手ながら、昭和40年12月15日までに下記推薦委員会宛御送り頂ければ幸に存じます。

送附先 東京都文京区弥生2丁目
 東京大学地球物理学教室 柳井 気付
 日本気象学会賞・藤原賞候補者推薦委員会

昭和41年度学会賞・藤原賞推薦委員会構成

北岡 龍海 (委員長)
 孫野 長治
 高橋 浩一郎
 小倉 義光
 柳井 迪雄 (幹事)

昭和29年 以降学会賞受賞者

昭和29年 井上栄一 小倉義光
 30年 黒岩大助 村上多喜雄
 31年 沢田竜吉 佐々木嘉和 都田菊郎
 32年 平尾邦雄 田尾一彦 須田 建
 朝倉 正
 33年 磯野謙治 山元竜三郎
 34年 北川信一郎 小林正治 伊藤 宏
 増田善信
 35年 毛利圭太郎 小林楨作
 36年 駒林 誠 笠原 彰
 37年 柳井迪雄
 38年 荒川昭夫
 39年 竹内清秀
 40年 樋口敬二

昭和38年 以降藤原賞受賞者

昭和38年 斎藤 錬一
 39年 宮崎正衛 宇野木早苗 上野 武夫
 40年 山本 義一